

令和元年 製図講座の予定

1. 製図講座予定

令和元年の1級建築士の製図講座は、以下の予定である。

毎年、個人からの質疑応答は、3回目予測課題の解答後からであるが、今年は、1回目解答後に早めた。

8/5(月): 製図課題の所見

8/12(月): 1回目予測課題、添削受付開始、重要な要求室の解説

8/19(月): 1回目予測課題の解答(8/19以降は**質疑応答対応**=公開)、確定エスキス

8/26(月): 2回目予測課題、計画の要点等のまとめ(丸暗記して下さい)、1回目課題の添削例紹介

9/2(月): 2回目予測課題の解答

9/9(月): 3回目予測課題、2回目課題の添削例紹介

9/16(月): 3回目予測課題の解答

9/23(月): 合格するためのR1総括(重要)、3回目課題の添削例紹介

2. 通学すれば合格できるのか？

結論から言うと合格率40%が、通学により約50%へ上昇するのみである(10%アップでも凄いと言える)。

平成27年の製図合格者は、3,774名である。そのうち、大手資格学校の合格占有率は、S社**67%**(2,149名)、N社**30%**(1,145名)、その他13%(480名)である。大手資格学校2社の合格者は、9割弱を占めている(近年は公表していないが、ほぼ同程度と推定)。なお、2社とも合格率は、ほぼ同じ約50%と推定しており、S社は単純に受講者が多いので、占有率で見ると高い数値となっている(合格率は単純な受講者の内の合格者、出席率**%模試**点以上等の条件無)。

両校ともに試験日が近づくと、「2人に1人しか合格できない、作図を多く書いた人が合格する」等の気合を入れ始める(資格学校の指導責任回避?)。資格学校には、毎年数千人の受講者がいるが、その全員が同じ学習を受けている(受講者平等性から差別化できない)。従って、事実上(合格者約9割を占める)、製図試験に合格するかどうかは、資格学校の内部受講者での1/2の競争になる。

資格学校には通学の良さがある。特に、対面学習や他者とのグループミーティングなどは自己の学習意欲を向上させる。研究会は、決して資格学校を否定するものではない。ただし、あまりに高額である点は疑問に感じている。特に通学の不合格者には、翌年半額にするなどの企業責任を取っても良いのでは、せめて採点日に合格できなかった人に対しての翌年長期約80万円コースを勧誘するのはやめた方がよい。

研究会は、資格学校が踏み込めない一歩先の「**ここが出る予測課題**」を解説している。従って、受講者内で隣の人に勝つためには、当HPの活用を推奨する(年会費2万円のみ)。なお、資格学校に通学しないで、当HPだけで製図試験に一発合格した会員もいるので、独学の方も活用頂きたい。

3. 予測課題(3案)でなぜ80%以上の中できるのか？

研究会は、過去問の徹底分析と、多くの会員の協力による通学講座S社、N社、通信講座Z社、I社など多くの予測課題を分析しているので、3予測課題で毎年80%以上ズバリ的中させることができている。

下表は、H30の「本試験課題と予測課題との比較」であるが、S社は大部分の予測課題でB1を計画している(N社はB1計画は全くない)。この点は、本試験課題を見るとN社が的中したこととなるが、S社も多くの的中要求室等があり、両社を分析することで的中確立を向上させることができる。

本試験課題を的確に予測することは、非常に困難である(特に毎年「**予測し難い内容**」が組込まれる)。

そのために資格学校等では、10種類以上の予測課題を毎週作図させるという手法を取っている。この手法であれば、多くの課題の中のどれかはセンター試験課題と類似するので、学校としての企業責任は問われない。しかし、企業リスクは安全となるが、予測課題が多過ぎて、受講者は「**結局何が出るの?**」と疑問を持つことと、全てのパターンを学習するには膨大な時間を要する。毎年、受験者の中には、「あんなに勉強したのにエスキスがまとまらなかった」という方がいるが、これは予測課題が多すぎる弊害である。製図試験は時間との勝負の試験でもあるので、予測課題は3パターンを徹底学習した方がエスキスがまとまりやすく合格しやすい。

研究会は、この点を考慮して「**これが出る**」という予測課題を3案に絞り込んで提案する。H28、H29、H30の予測課題は、**80%以上ズバリ的中した**(下記に「H30試験課題と研究会の予測課題との比較一覧表」検証結果を示す)。

本試験課題と予測課題との比較 (参考として市販書籍(N社)・S社資格学校・N社資格学校の要求室等あり)

表1 各予測課題の比較一覧表

Table with columns for '各社' (各社), '課題名' (課題名), '建設用地' (建設用地), '指定広域種' (指定広域種), '東西南北の条件' (東西南北の条件), '要求室' (要求室), '屋外広場' (屋外広場), '駐車場' (駐車場), '備考' (備考). It lists various prediction tasks and compares them against requirements from different sources.

注意:上記取扱いとは、要求室の軽運動部門の「医務室」は管理部門内も、共用部門の「売店」とラウンジはエントランス内も、屋外広場は1階又は2階有、類似用途は一部名称が類似したものへ統合、N社学校とS社学校は委員の協力により本要件作成前と協力頂いたものであり参考程度にしてください。

参考:10月7日までのN社学校とS社学校との課題で主な相違点は、①温水プールは、N社紀要、S社機要が多い、②施設数は、N社地上3階建て、S社地下1階機械室地上3階建てが多い、③利用専用駐車場は、N社敷地内設定半分程度の課題あり、S社敷地内設定少ない等である。

H30試験課題と研究会の予測課題との比較一覧表(検証)

Table with columns for '各社' (各社), '課題名' (課題名), '建設用地' (建設用地), '指定広域種' (指定広域種), '東西南北の条件' (東西南北の条件), '要求室' (要求室), '屋外広場' (屋外広場), '駐車場' (駐車場), '備考' (備考). It compares the H30 exam task with the research association's prediction task.

表1 各予測課題の比較一覧表

※試験課題で出題された内容と研究会の予測課題の内容が類似したものを示す(細かい数値等の違いは類似したとしている)。

Table with columns for '各社' (各社), '課題名' (課題名), '建設用地' (建設用地), '指定広域種' (指定広域種), '東西南北の条件' (東西南北の条件), '要求室' (要求室), '屋外広場' (屋外広場), '駐車場' (駐車場), '備考' (備考). It lists prediction tasks and compares them against requirements.

表2 計画の要点等(記述課題)の比較一覧表

※試験課題で出題された内容と研究会の予測課題の内容が類似したものを示す(細かい数値等の違いは類似したとしている)。

Table with columns for 'NO.', 'センターの試験課題(記述)', '研究会の予測課題(記述)'. It compares key points of the plan for the exam task and the research association's prediction task.

注意:試験課題は、2018.10.22現在まだ公表されていない。本内容は、受験者からの聞き取り調査に基づき作成したものであり、試験課題と異なる場合があるため、参考として見て下さい。